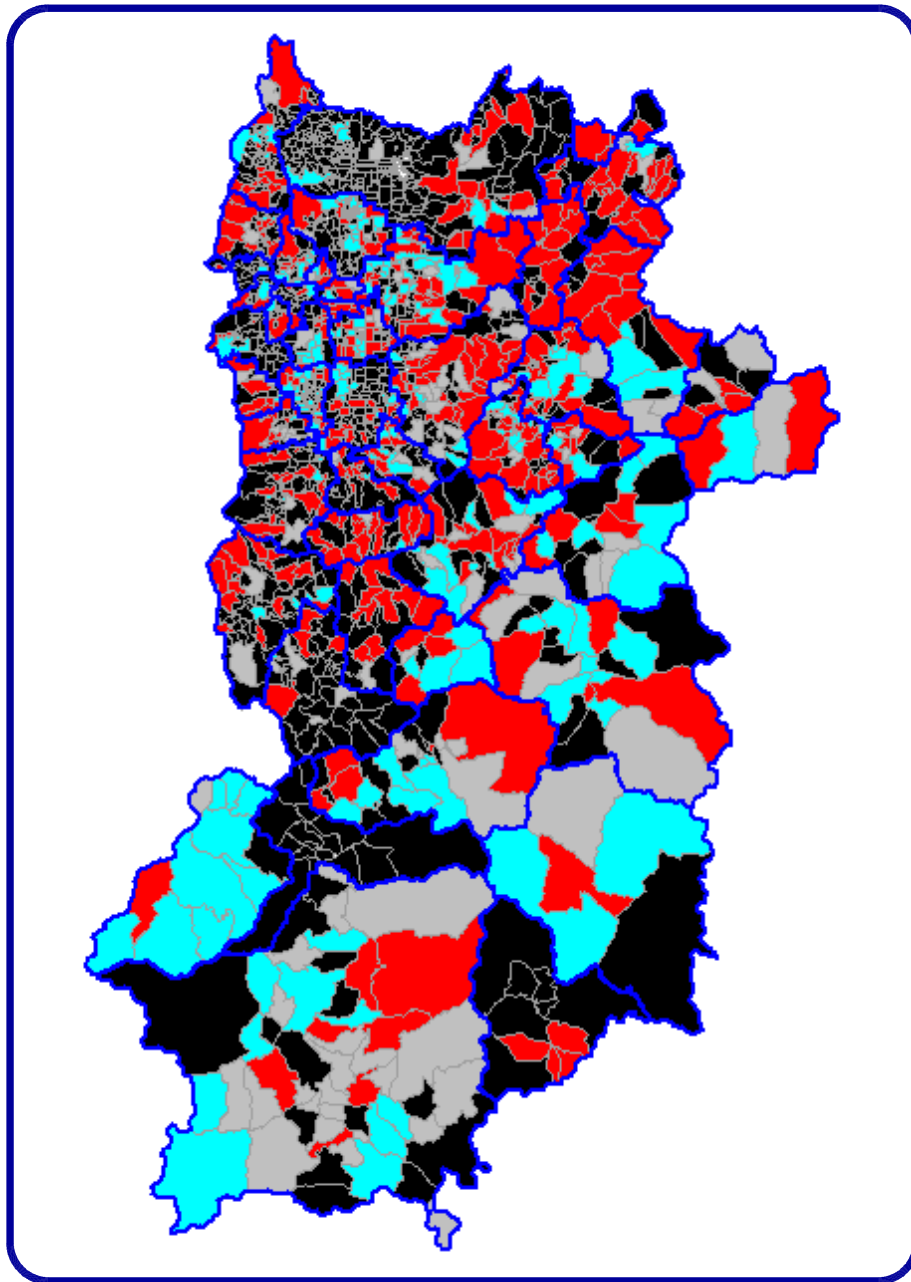


# 農業・林業集落アンケート調査によるアライグマの生息状況・被害状況(平成22年度)

## 1. 平成22年度の農業集落アンケート調査によるアライグマの分布



左図は、平成22年度の農林業集落アンケート調査による、アライグマの分布である。

農業集落でアライグマが「いる」と回答があった場合に「分布している」とした。回収無しには既に人が住んでいない集落も含まれている。

県内の広い範囲から「いる」との回答があり、県北部から県中部を中心に、既に県内の広い範囲で生息していることがわかる。

平成22年度

|        |        |
|--------|--------|
| ■ いる   | 416集落  |
| ■ いない  | 209集落  |
| ■ 回答無し | 123集落  |
| ■ 回収無し | 1060集落 |
| 全      | 1808集落 |

参考)平成21年度

|       |        |
|-------|--------|
| ■ いる  | 417集落  |
| ■ いない | 367集落  |
| ■ 無回答 | 3集落    |
| ■ 回収無 | 1021集落 |
| 全     | 1808集落 |

参考)平成20年度

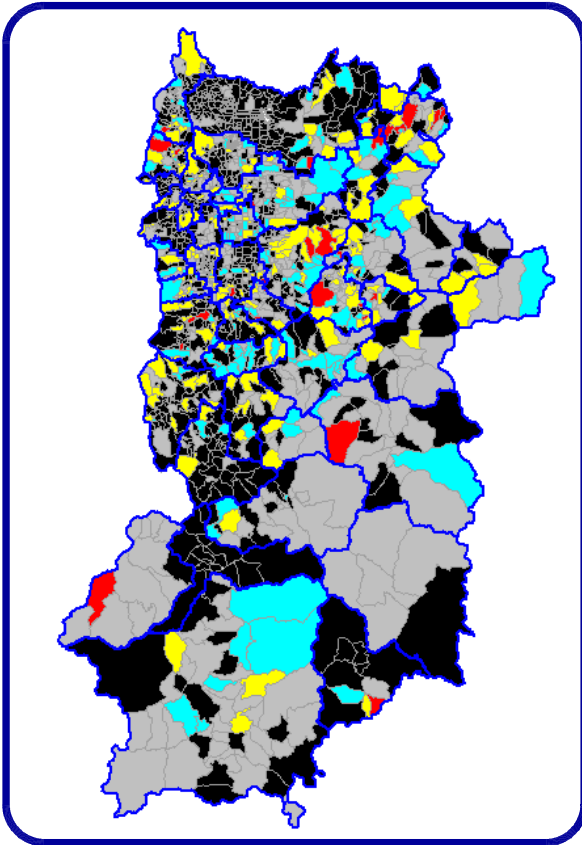
|        |        |
|--------|--------|
| ■ いる   | 322集落  |
| ■ いない  | 318集落  |
| ■ 回答無し | 117集落  |
| ■ 回収無し | 1051集落 |
| 全      | 1808集落 |

参考)平成19年度

|        |        |
|--------|--------|
| ■ いる   | 355集落  |
| ■ いない  | 596集落  |
| ■ 回答無し | 100集落  |
| ■ 回収無し | 757集落  |
| 全      | 1808集落 |

凡例 図中 青線 旧市町村界  
市町村界内側の線 大字・地区界  
 市町村界、大字・地区界の凡例は以降の図も同様である

## 2. アライグマの農地・集落周辺への出没状況



左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、アライグマの農地・集落周辺への出没状況である。

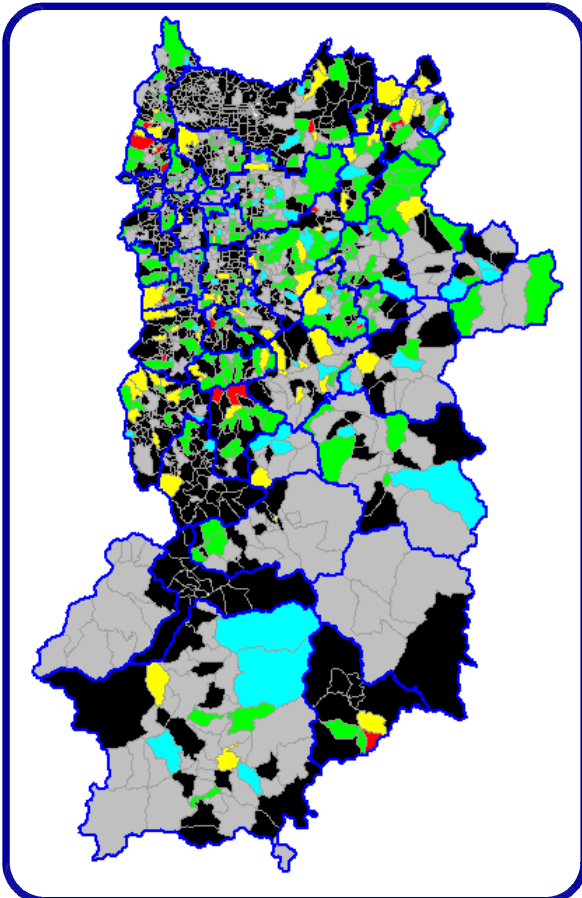
アライグマが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった集落の内訳は下記の通りである。

「よく見る」との回答は県北部や県中部からが多い。

| 平成22年度 |              |
|--------|--------------|
| よく見る   | 30集落(8.0%)   |
| たまに見る  | 188集落(50.1%) |
| あまり見ない | 157集落(41.9%) |
| 計      | 375集落        |

| 参考)平成21年度 |              |
|-----------|--------------|
| よく見る      | 39集落(10.3%)  |
| たまに見る     | 206集落(54.4%) |
| あまり見ない    | 134集落(35.4%) |
| 計         | 379集落        |

## 2. アライグマによる農業被害の大きさ



左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、農業被害の大きさの意識調査の結果である。

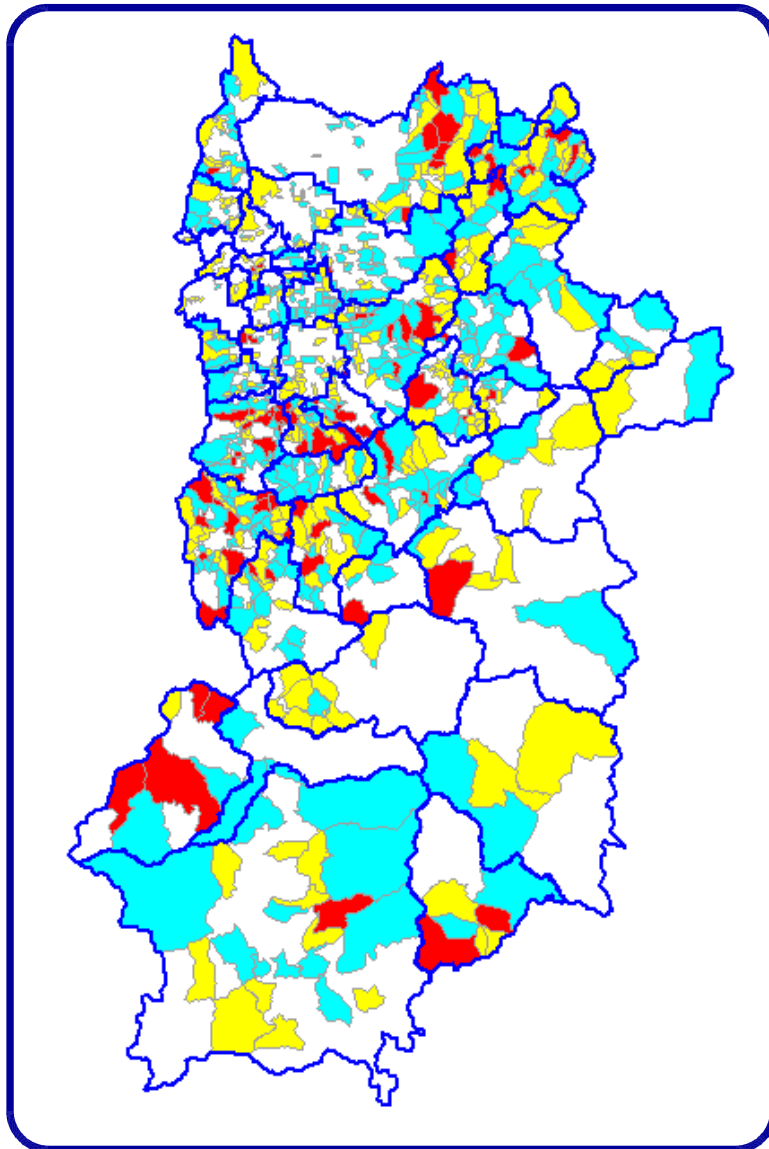
アライグマの被害は、県北部から県中部を中心に発生している。

被害の大きさは、「軽微」という回答が約63%と最も多かった。しかし、「大きい」または「深刻」という回答も併せて約23%存在している。そしてこれらの地域は、農地・集落周辺への出没が多い地域と重なっている。

| 平成22年度         |              |
|----------------|--------------|
| ほとんど無い         | 64集落(15.7%)  |
| 軽微             | 251集落(61.7%) |
| 大きい(生産量の30%未満) | 72集落(17.7%)  |
| 深刻(生産量の30%以上)  | 20集落(4.9%)   |
| 計              | 407集落        |

| 参考)平成21年度      |              |
|----------------|--------------|
| ほとんど無い         | 67集落(16.6%)  |
| 軽微             | 230集落(56.9%) |
| 大きい(生産量の30%未満) | 81集落(20.0%)  |
| 深刻(生産量の30%以上)  | 26集落(6.4%)   |
| 計              | 404集落        |

### 3. アライグマの農地・集落周辺への出沒動向(平成19～22年度の4年間)



左図はアライグマの農地・集落周辺への出沒の4年間の動向である。

毎年集落毎に農地・集落周辺へのアライグマの出沒を1. よく見る、2. たまに見る、3. あまり見ないの区分で回答を得ているが、これらの回答を「よく見る」は+1、「たまに見る」は±0、「あまり見ない」は-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、+1以上の場合(つまりよく見るが多い場合)は赤色で、0になる場合(つまりたまに見るになる場合)は黄色で、-1以下の場合(つまりあまり見ないが多い場合)は青色で各集落に色をつけた。4年間で1度でも回答があった場合を集計している。なお、空白は調査した4年間、アライグマがいない、無回答、集落に人が住んでいないのいずれかである。

アライグマの農地・集落周辺への出沒は、県北東部から県中部、県西部、そして県南部の一部地域でにかけて多くなっていた。これらの地域は、被害が「大きい」または「深刻」と回答のあった地域と重なっている。

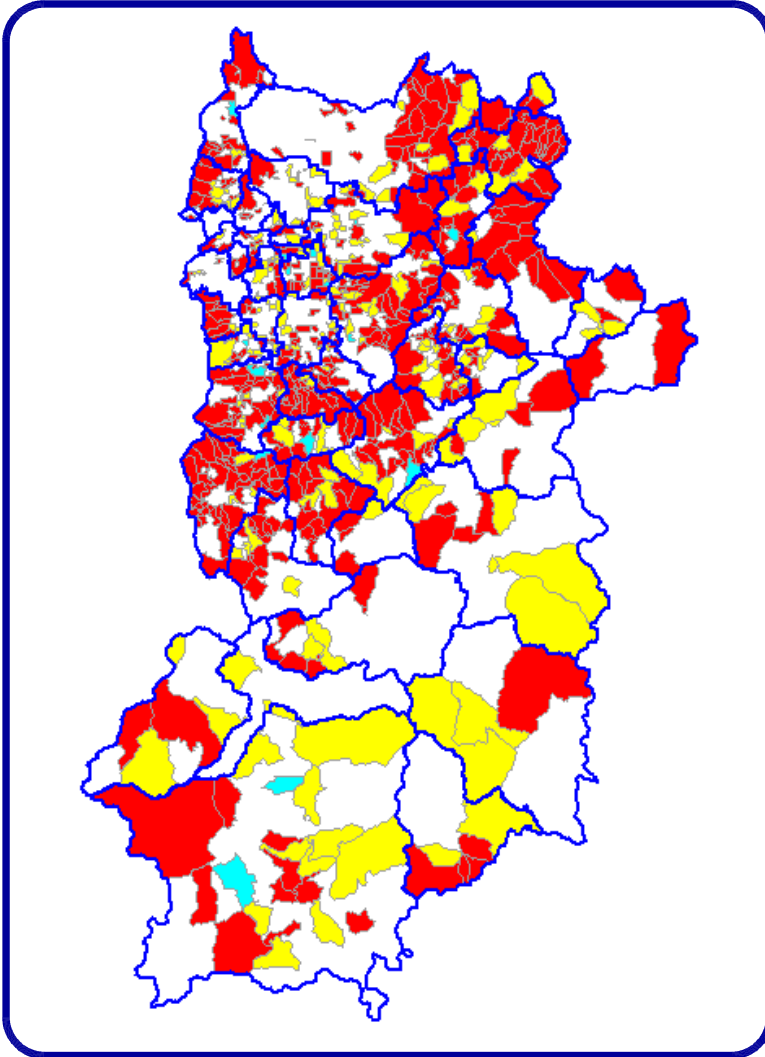
#### ・平成22年度までの4年間

|        |              |
|--------|--------------|
| よく見る   | 80集落(11.3%)  |
| たまに見る  | 279集落(39.4%) |
| あまり見ない | 349集落(49.3%) |
| 回答数    | 708集落        |

#### ・参考)平成21年度までの3年間

|        |              |
|--------|--------------|
| よく見る   | 66集落(9.4%)   |
| たまに見る  | 457集落(64.8%) |
| あまり見ない | 182集落(25.8%) |
| 回答数    | 705集落        |

#### 4. アライグマの農業被害意識の動向(平成19~22年度の4年間)



左図はアライグマによる農業被害の意識の4年間の動向である。

毎年集落毎に農業被害を前年度(初年度調査時のみ10年前と比較して)より1. 増えた、2. 変わらない、3. 減ったの区分で回答を得ているが、「増えた」を+1、「変わらない」を±0、「減った」を-1とポイント化し、それを集落毎に合計し、+1以上の場合(つまり増えている場合)は赤色で、0の場合(つまり変わらない場合)は黄色で、-1以下の場合(つまり減っている場合)は青色で各集落に色をつけた。4年間で1度でも回答があった場合を集計している。空白は調査した4年間、アライグマがない、回答がない、集落に人が住んでいないのいずれかである。

アライグマによる農業被害の意識は、ごく一部では減っているものの、回答を得た集落のうち約70%が増えたとなっており、農業被害は県全体で増加傾向にあることが判る。

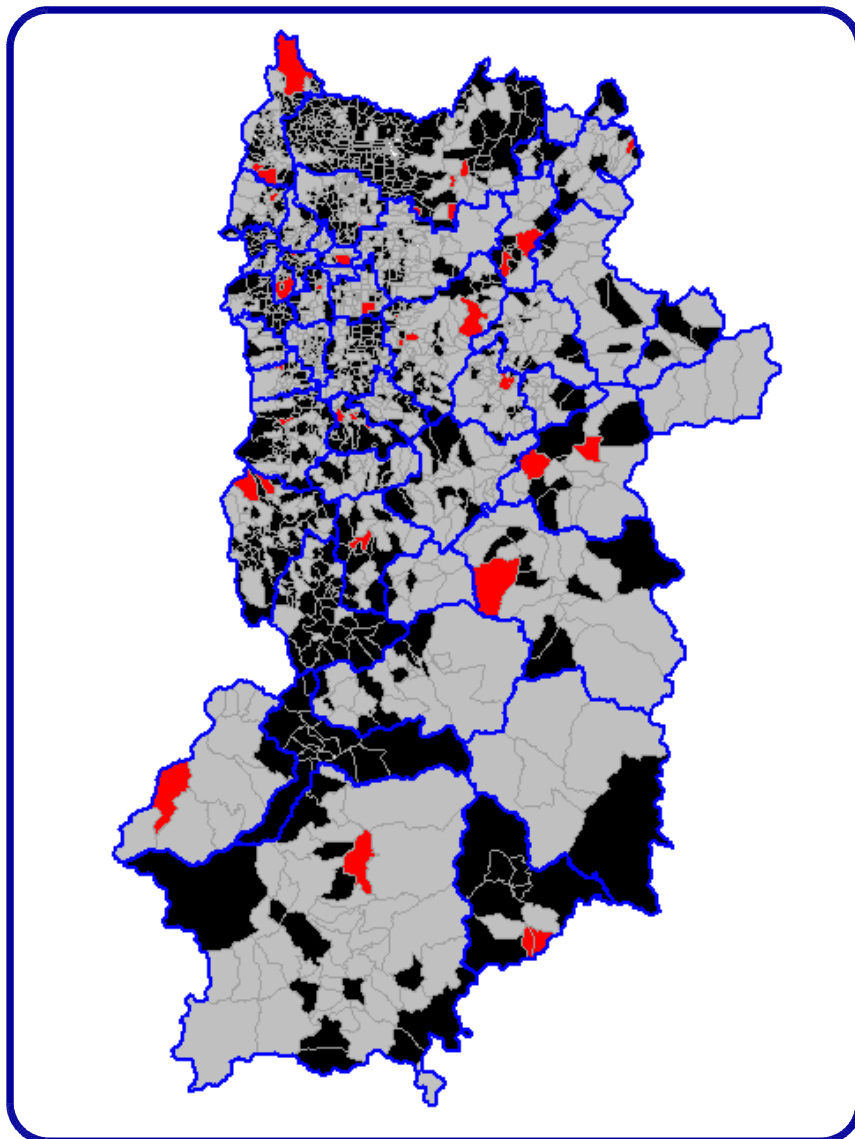
##### ・平成22年度までの4年間

|         |               |
|---------|---------------|
| ■ 増えた   | 488集落 (69.6%) |
| ■ 変わらない | 196集落 (28.0%) |
| ■ 減った   | 17集落 (2.4%)   |
| 回答数     | 701集落         |

##### ・参考)平成21年度までの3年間

|         |               |
|---------|---------------|
| ■ 増えた   | 421集落 (70.3%) |
| ■ 変わらない | 165集落 (27.5%) |
| ■ 減った   | 13集落 (2.2%)   |
| 回答数     | 599集落         |

## 5. アライグマによる衛生被害



左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、アライグマによる衛生被害の意識調査の結果である。

「家屋に住み着く、糞尿被害がある」を衛生被害とした。

回答数は多くないが、県内の広い地域から回答がある。

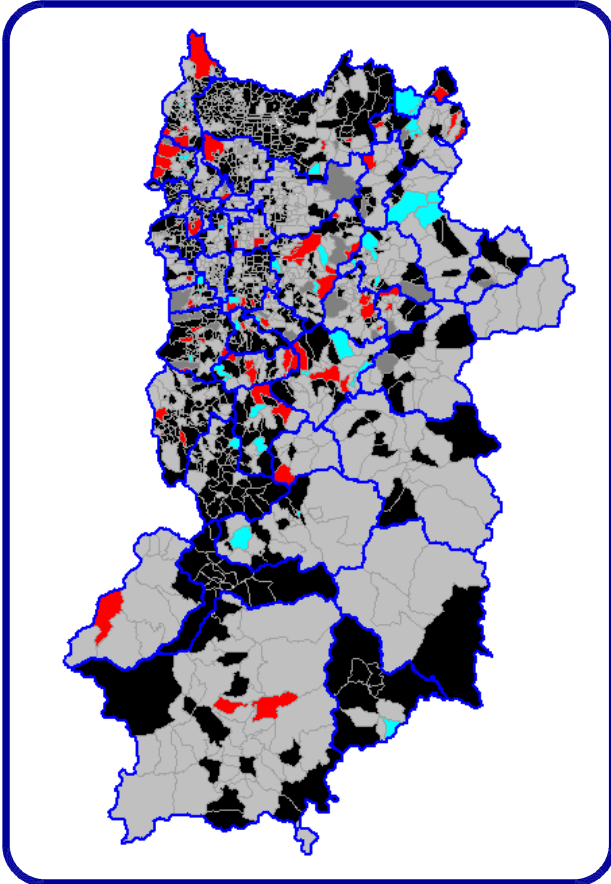
・平成22年度

■衛生被害がある 38集落

・参考)平成21年度

■衛生被害がある 32集落

#### 4. アライグマの被害対策 侵入防止柵(防護柵)の設置の効果(農地)

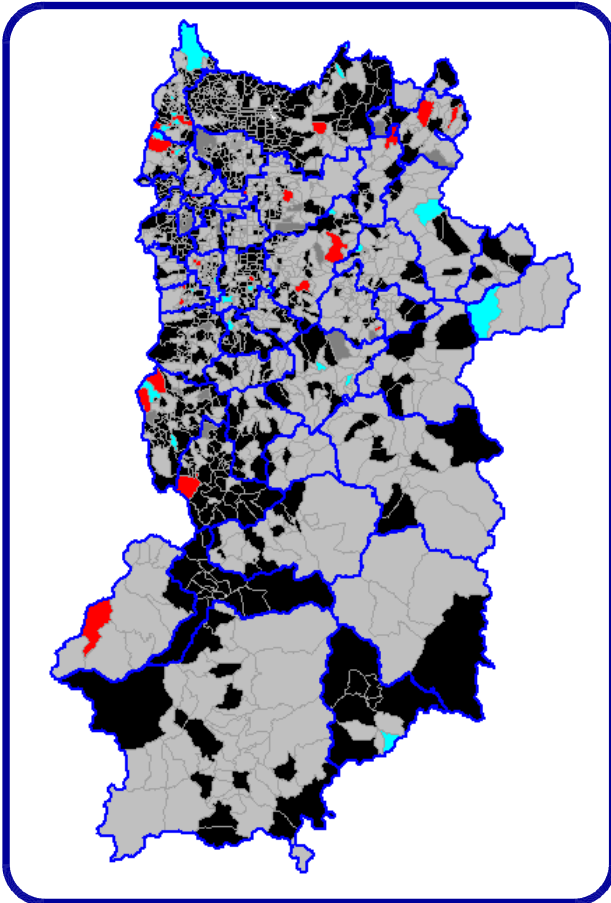


左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、農業被害対策の、アライグマ侵入防止柵(防護柵)の設置の効果の意識調査の結果である。

効果の有無の回答のうち約65%が、侵入防止柵(防護柵)による被害対策は効果があったということであった。

|           |              |
|-----------|--------------|
| ■ 効果があった  | 69集落 (65.1%) |
| ■ 効果がなかった | 37集落 (34.9%) |
| 回答        | 106集落        |

#### 5. アライグマの被害対策 有害捕獲の効果(農地)



左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、農業被害対策の、有害捕獲を実施した効果の意識調査の結果である。

効果の有無の回答のうち半数弱が、有害捕獲による被害対策は効果があったということであった。

|           |              |
|-----------|--------------|
| ■ 効果があった  | 23集落 (47.9%) |
| ■ 効果がなかった | 25集落 (52.1%) |
| 回答数       | 48集落         |

アライグマの生息数が少ない侵入初期には、被害も少ないため対応が後手になりがちである。そして、被害が顕在化してから捕獲を実施することが多いが、その時点で既にアライグマは個体数を増加させている。アライグマの産仔数は年に約3~7頭と多産なため、例えば10頭生息しているとすると9頭までを捕獲しなければ個体数を低減させることはできない。効果がないように感じられるのは、捕獲数が少ない可能性がある。

アライグマはそもそも北米の動物であり、日本の自然界に存在するものではないため、「外来生物法」で、「特定外来生物」に指定されている。外来生物法の「防除計画による捕獲」、鳥獣法の「有害捕獲」によって、積極的に捕獲を実施し、アライグマを地域から排除しなければならない。